平成 28 年度「東京都統一体力テスト（東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査）」の結果について③

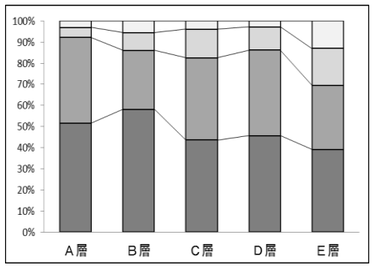
平成２９年２月２７日
第４回教育委員会資料
教 育 部 指 導 課

Ⅳ　体育（保健体育）の授業に対する受け止めと体力合計点との関係（平成２８年度全国体力テスト：小5・中2を対象）

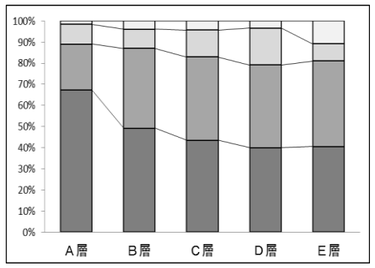
授業の目標が示されている

（ 示されている　 ときどき示されている　 あまり示されていない　 示されていない）

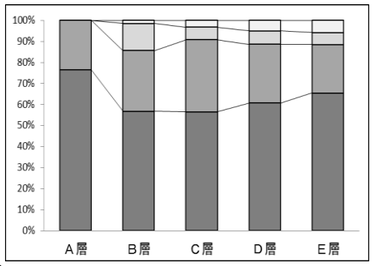
【小５男子】



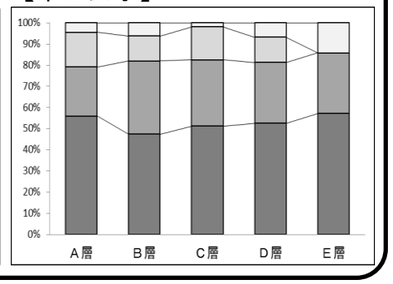
【小５女子】



【中２男子】



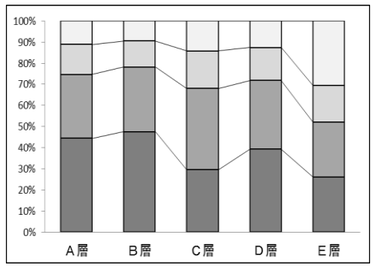
【中２女子】



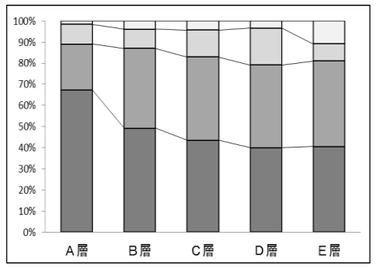
学んだ内容を振り返る活動を行っている

（ 行われている　 ときどき行われている　 あまり行われていない　 行われていない）

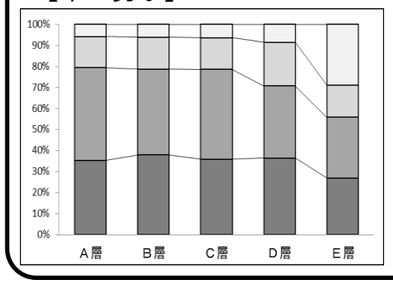
【小５男子】



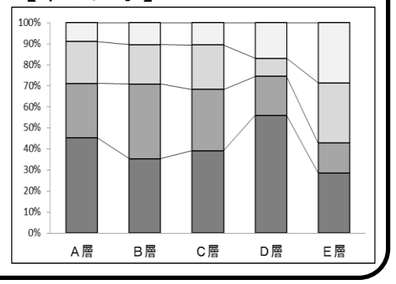
【小５女子】



【中２男子】



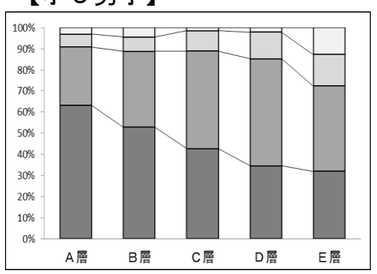
【中２女子】



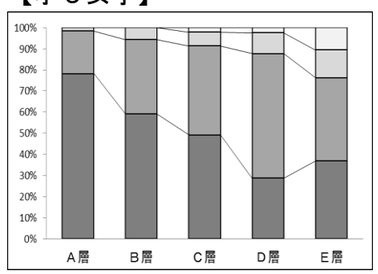
友達と助け合い、役割を果たすような活動を行っている

（ 行われている　 ときどき行われている　 あまり行われていない　 行われていない）

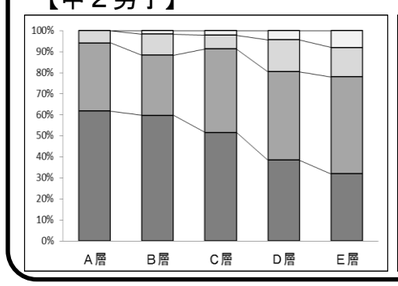
【小５男子】



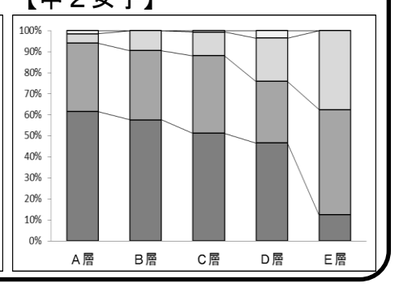
【小５女子】



【中２男子】



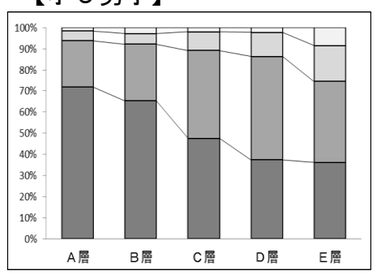
【中２女子】



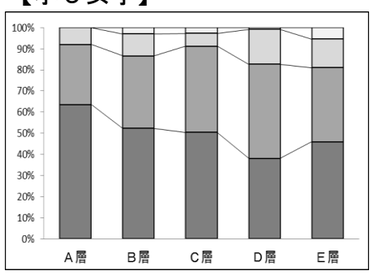
友達同士やチームの中で話し合う活動を行っている

（ 行われている　 ときどき行われている　 あまり行われていない　 行われていない）

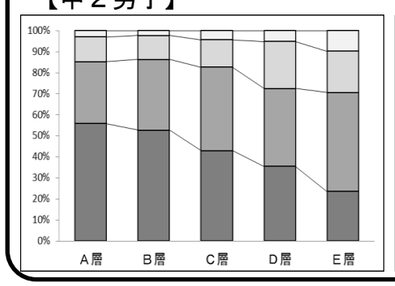
【小５男子】



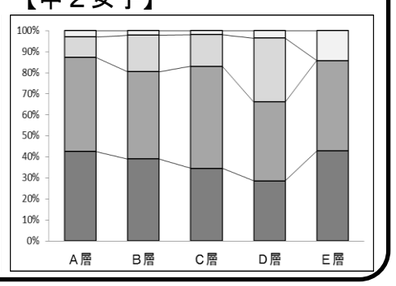
【小５女子】



【中２男子】



【中２女子】



Ⅴ　結果の分析と分析に基づいた学校経営・授業改善の方針

1　①体力調査の結果から、男子は学年・年度が上がるにしたがって、運動能力が高まっている。その反面、女子は例年並みである。また、総合評価において、特に中学校では上位層のＡ層、Ｂ層の割合が増加し、下位層のＤ層、Ｅ層の割合が減少している。
②今後、より一層、体育（保健体育）の授業はもちろんのこと、集会活動、クラブ・部活動（文化部を含む）、休み時間等を効果的に活用し、運動に親しませる機会を設定する必要がある。また、幼稚園・保育園とともに、情報交流・相互交流等など連携を図り、幼稚園・保育園・義務教育を見通した教育活動を展開していく。

2　①握力や上体起こし、長座体前屈は東京都の平均値を上回っている学年が多く、筋力や柔軟性は高まっていると捉えることができる。
②リラックスしながらペアでのストレッチを行うなど「体ほぐしの運動」や「多様な動きをつくる運動」、「マット運動」等の充実を図っていく必要がある。

3　①持久力は年度を追うごとに確実に定着が図られつつある。
②今後、より一層、「ペースを守り、一定の距離を走る」等の長距離走や動きを持続する運動など持久力を高めるための運動を意図的・計画的に行っていく必要がある。また、市の大会である「立川シティハーフマラソン」や「立川市駅伝競走」、「小学生ロードレース」等の大会があることを紹介し、児童・生徒がめあてをもって積極的に挑戦できる機会を提供することが大切である。

4　①運動する機会が多い児童・生徒ほど体力合計点は高い。また、朝食を食べる児童・生徒や、睡眠をしっかりとる児童・生徒の体力合計点も高い。
②体育・保健体育をはじめ、学校の教育活動全体を通して健康三原則と言われる「運動」「食事」「睡眠」のバランスのとれた生活習慣の定着を図るとともに、家庭とも連携して取り組んでいく。

5　①運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒は小中ともに男子では９割を超えている。各学校が日頃の体育（保健体育）の学習や一校一取組等において運動の楽しさや喜びを味わえる工夫を行ってきた成果と言える。
②引き続き、体育・保健体育の学習を契機に、始業前、業間、放課後での活動や土・日曜日などでの運動・スポーツ活動につながり、運動の日常化に発展するような授業づくりを工夫する必要がある。また、一校一取組運動を充実させ、児童・生徒が運動する機会を確保するとともに、運動が苦手な児童・生徒に対する積極的な働きかけを行っていくことが大切である。

6　①体育の授業が楽しいと感じている児童・生徒の割合は高い水準を保っているものの、学年が上がるにつれて割合が減少している。
②児童・生徒の発達段階に応じて、意欲的に運動に取り組む態度の育成を図り、「体を動かしたい」という意欲を喚起したり、運動の領域の特性に触れ、達成感を味わったりすることのできる授業改善に取り組む必要がある。

7　①体育（保健体育）の授業において、「教科の目標を示すこと」「学んだ内容を振り返る活動を行うこと」「友達と助け合い、役割を果たすような活動を行うこと」「友達同士やチームの中で話し合う活動を行うこと」を実感している児童・生徒ほど、体力合計点は高い。
②体育（保健体育）の授業において、この点を確実に押さえた授業を実施するとともに、児童・生徒が運動することに楽しさを見出し、学習への達成感や仲間との関わりを実感し、夢中になって運動に取り組もうとする授業づくりを行っていく必要がある。また、タブレット端末の活用を積極的に取り入れ、協働的な学びを更に推進するとともに、動画を見ながら運動技術を学習し合い、「分かってできる」授業を実践していく必要がある。